

CASBEE[®] あいち

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一宮警察署庁舎(新庁舎)	階数	地上8F
建設地	愛知県一宮市本町1丁目6-9、6-10	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	420 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年11月 予定	評価の実施日	2023年11月13日
敷地面積	4,435 m ²	作成者	岩月亮士
建築面積	1,159 m ²	確認日	2023年11月13日
延床面積	7,622 m ²	確認者	鈴木雄一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 82%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	3.7
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

機能性	3.6
耐用性	4.1
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.6

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	3.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.6
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	2.8

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">10.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>県産木材(外装材)</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>県産木材(内装材)</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
 LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部		建物全体・共用部		居室・宿泊部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.2	0.15	-	-	-	-	-	3.2
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-	3.4
1 開口部遮音性能				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.60	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			床:タイルカーペット、天井:化粧吸音石膏ボード	-	3.0	-	-	-	-	-	-	
				-	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 温熱環境												
2.1 室温制御				0.3	3.0	0.35	-	-	-	-	-	3.0
1 室温				0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
				3.0	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
3 光・視環境												
3.1 屋光利用				0.2	3.7	0.25	-	-	-	-	-	3.7
1 屋光率			屋光率:3.522	0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
2 方位別開口				3.0	4.0	0.60	-	-	-	-	-	
3 屋光利用設備			ハイサイドライトの設置	3.0	4.0	0.40	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
1 屋光制御			ブラインド及び庇にて制御	5.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-	
3.3 照度			全般照明方式で照度が600LX以上	3.0	4.0	0.15	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
4 空気質環境												
4.1 発生源対策				0.2	4.0	0.25	-	-	-	-	-	4.0
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆の建材使用	0.5	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	5.0	1.00	-	-	-	-	-	
1 換気量				0.3	2.3	0.30	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			建物内禁煙	3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
				3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
Q2 サービシ性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.6	0.40	-	-	-	-	-	3.6
1 広さ・収納性				0.4	3.3	0.40	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			複数通信事業者の回線が引込可能である	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		独自	県条例を準拠	3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)			天井高さ:2.6m	0.3	3.6	0.30	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
3 内装計画			内観パースを作成	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
3.0				3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理				0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			勾配による害鳥対策及び金属にメッキ処理等	3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			OAフロア採用により、配線の自由度を確保	-	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	4.1	0.31	-	-	-	-	-	4.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			重要度係数1.5	0.4	4.6	0.48	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	5.0	0.80	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			浴室、ユニットシャワーの排気系統にステンレスダクトを採用	-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水:VLP、排水:VP	-	4.0	0.08	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	
				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	4.2	0.19	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備			熱源に電気・ガスを利用、耐震クラスAにて計画	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			節水型器具を採用、汚水一時貯留槽設置、受水槽に蛇口を設置	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
3 電気設備		②	非常用発電機設置、地下に電源設備なし	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法			耐震クラスA	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備			通信手段の多様化を図っている。通信の2引込みが可能。	3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	3.4
1 階高のゆとり				5.0	0.60		4.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			独自③	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	4.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.70	3.0	5.0	0.30		5.0
2 自然エネルギー利用				ハイサイド、引違い窓を設置	3.0	4.0	0.20		4.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.72	3.0	3.8	0.30		3.8
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	3.0	-		-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63		-	3.6
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			独自		3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤					-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①		3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自		5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.8	0.33		-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自		3.0	0.50		-	
2 振動			独自		3.0	0.50		-	
3 悪臭					-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					1.0	-		-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	2.3	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					2.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

宮城県庁舎(新庁舎)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	4.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:10.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				4.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	県産木材(外装材)
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	県産木材(内装材)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 一宮警察署庁舎(新庁舎)

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ①逃走防止・侵入防止を徹底し、情報・証拠品を確実に防護するセキュリティ確保 ②機動性と効率化の追求と周囲への影響を最小化した使いやすく訪れやすい庁舎 ③災害発生後の活動に備え、万全な治安維持機能を継続発揮できる庁舎
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・深い軒の出を用いた日射制御 ・各諸室のグレードに応じて適切な仕上の採用 ・内装仕上にF☆☆☆☆を全面的に採用 ・建物内禁煙
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスしやすい屋上設備スペース ・重要度係数I=1.5 ・空調熱源に電気／ガスを採用、重要室は非常用発電機により災害時対応 ・緊急用汚水槽設置 ・受変電設備・自家発電機を屋上に設置、通信機械室を4階に設置
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・段・傾斜路が無く、滑りにくく平坦な表面仕上 ・エントランスに大きな庇を計画 ・エントランス壁面・庇軒天に県産材木材を使用
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・深い軒の出を用いた日射制御 ・開口部に複層ガラスの採用 ・高効率機器の採用 ・節水型衛生器具、擬音装置の採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・躯体と内装仕上げの分離が容易、OAフロアの採用 ・F☆☆☆☆の建材使用
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な容量かつ回遊性のある駐車場 ・敷地外への騒音・振動の配慮
その他	特になし